

国際文化学部  
情報デザイン学部  
2024年4月開設

シスター来日100周年記念号



[特集]

シスター来日100周年記念  
新学棟トリニティホール竣工式

## 聖書の言葉

時が満ちると、神は、その御子を女から、しかも律法の下に生まれた者としてお遣わしになりました。それは、(中略)わたしたちを神の子となさるためでした。あなたがたが子であることは、神が、「アッパ、父よ」と叫ぶ御子の霊を、わたしたちの心に送ってくださった事実から分かります。

「ガラテヤの信徒への手紙」4章4―6節

神が御子イエスを、聖母マリアからの誕生を通して私たちに遣わしてくださったのは、私たちが神の子としてくださるためでした。ここで、「アッパ」とはイエスの母語のアラム語で、幼児が父親を親しみをこめて呼ぶ「パパ」「お父ちゃん」というような言葉ですが、イエスはいのちの源である神に、子としての全幅の信頼をもって「アッパ」と親しく呼びかけて祈り、弟子たちにもそれを伝授しました。弟子に授けた「主の祈り」も「父よ(＝アッパ)で始まります(ルカ11・2)。この「アッパ」と祈るイエスの肉声が余りに重要なので弟子たちの記憶に刻まれ、パウロに伝えられ、ここに記されたのです。パウロは、私たちが神に「アッパ」と呼びかけ祈れるのは、御子イエスからの聖霊が私たちの心に送られ、共に「アッパ」と祈ってくださっているからだと言っています。ここには、アッパ、御子、聖霊の三位一体(トリニティ)の神の親しい愛の交わりの場に、私たちが子としてつながることのできる恵みと喜びがあります。

シスター来日百年記念の新棟「トリニティホール」の「トリニティ」にはこうしたキリスト教の核心を表す深い意味が込められています。

キリスト教文化研究所教授 山根 道公

## Mini Serialization

## Seishin Archives 今に続く清心の歴史をご紹介 不易流行のキャンパス



ノートルダムホール本館・東棟は2029年に竣工100周年を迎えます。

チェコ出身のアントニン・レーモンド氏(1888年～1976年)により設計された当館は、学び舎として現存している貴重な建築遺産であることから、2007年国の重要文化財に指定されました。

先の戦争時には黒く塗られ、爆撃から守られた様子が写真に映し出されています。95年のあいだ、このホールから見える景色はさまざまに変化していますが、階段の手すりや丸い窓などいたるところに感じられるぬくもりで今日も変わらず、学生たちをあたかく包んでくれています。

## ノートルダムの風景

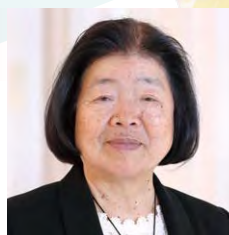
2024年3月15日に完成した新学棟トリニティホールの西側には、ノートルダムホール東棟や中央棟、ジュリーホールへとつながる通路が屋根付きの渡り廊下に生まれ変わっています。

毎日正午12時を過ぎたころには、この新しい廊下を行き来する学生の姿を多く見かけます。廊下沿いにあるイチョウの木々が、今年の猛暑を乗り越え、秋にはこのテラスとともに新しい景色を見せてくれるでしょう。



## 学長挨拶

# ノートルダム清心女子大学の さらなる飛躍に向けて



理事長・学長  
シスター 津田 葵

ナミュール・ノートルダム修道女会のシスター来日100周年の記念事業として、トリニティホールの竣工式が2024年7月16日に開催されました。当日、学内外の関係者、地域でお世話になっている関係者、県内の高校をはじめとする学校関係者の皆様、約150名の出席者が集い、アルベルト神父様による祝福の司式と祈り、姉妹校の清心中学校・清心女子高等学校のオーケストラ部の伴奏が会場に響き渡り、荘厳な雰囲気の中で、感謝の祈りが捧げられました。

この新学棟の名称「トリニティ」は、日本語で三位一体と訳されているキリスト教の核心的な教義を表す用語です。万物の創造主である父なる神は私たち人間界におんひと子イエス・キリストをお遣わしになりました。御子キリストは神と人間とを結ぶ仲介者となり、御父のもとから聖霊を私たちに送ってくださいました。そしてキリストは聖霊を通して、私たちの深奥に働きかけて励まし導いてくださっています。こうして、三位一体の神が私たちにまことの救いをもたらしてくださるのです。ですから、トリニティはまことの一致、親しい交わり、深い喜びを表しています。三位一体の神の御恵みを受けて、トリニティホールが国内外の学生、教職員、研究者の交わりと研鑽の場になるように願っております。

この新しい建物の器、トリニティホールは主に2024年4月に開設された国際文化学部、情報デザイン学部に関連する教育・研究・実践活動の場としてAI時代のリベラル・アーツを目指し、探求の基盤となっています。

近年のグローバル化の状況を前にして、行き交う人々のことばも文化的価値観も様々です。日本国内においても197カ国の外国人が居住しているという統計的な記録があります。少子高齢化が進み、労働力不足で外国人をはじめとする多様な人材が不可欠となっています。そのためには時機にかなった外国語が必須になります。このようなグローバル人材を育成するためにこの4月より国際文化学部を開設いたしました。

また、現代の社会はデジタル社会と言われています。情報通信ネットワークで発展してゆく社会です。いわゆるインターネットやスマホを使う社会です。そこではデータと情報を分析し、それらを取捨選択し、そこから何を表現し、どのように活用してゆくかを見極めることが大切であり、こうした活動は人間にしか

できない能力です。このようなデータサイエンスを手がかりにして、社会の諸問題にアプローチし、その問題解決のために論理的に考察する力、妥当性を判断する力、表現する力が養われます。こういう観点から次世代をリードし、貢献する人材を育ててゆくために新学科を設けました。この新しい学科は情報デザイン学科と名付けています。

このように今年度から文学部英語英文学科・日本語日本文学科・現代社会学科、人間生活学部人間生活学科・児童学科・食品栄養学科に加え、国際文化学部国際文化学科、情報デザイン学部情報デザイン学科という構成で、4学部8学科となりました。それぞれの学科はノートルダム清心女子大学の建学の精神に記されているとおり、社会の変化に相応した知識を学生たちに伝授してゆくことに直結しています。

知の全人的統合をはかる教育に向けてさらに努めてまいりたいと思います。

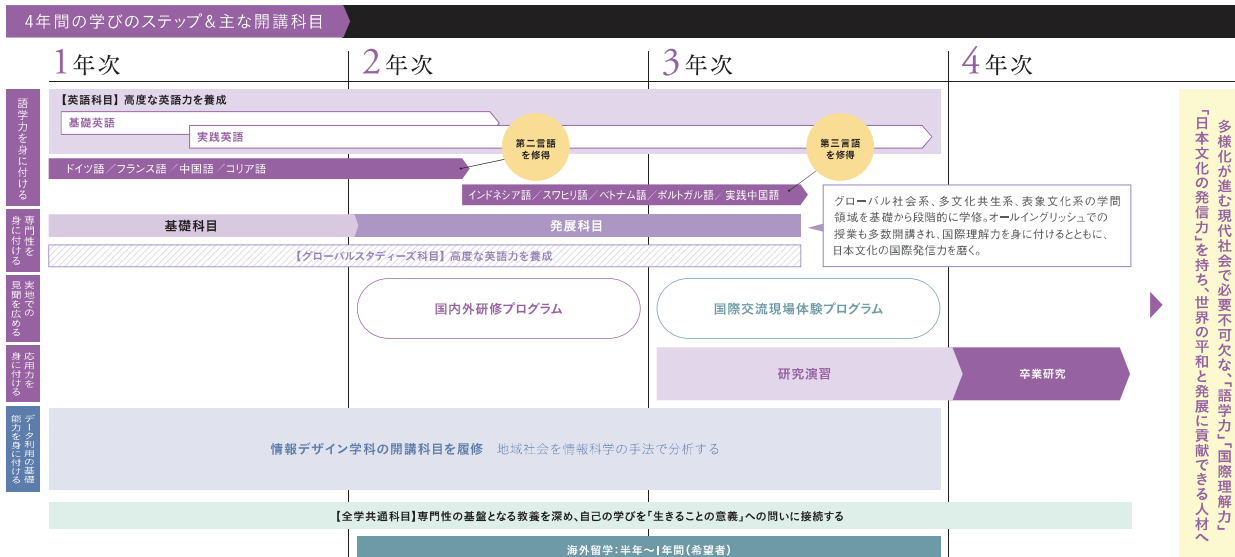


## 「国際文化学部」開設

シスター来日100年目の記念すべき2024年春に国際文化学部国際文化学科 (Department of Global Studies) が開設されました。グローバルスタディーズの基礎となるグローバル社会系・多文化共生系・表象文化系の3つの学問体系を基礎から段階的に学びます。また、英語のほか、8種類の外国語の学習機会と国内外研修プログラムや英語による専門科目が提供されるなど、実践型教育がカリキュラムに組み込まれています。1年次夏休みの少人数による集中英語プログラムと情報デザイン学部からの科目の相互提供が大きな特徴となっています。国際理解力と語学力、日本文化の発信力を身につけた学生を広く社会に送り出す使命をもって学科教員心を一つにしています。



国際文化部長  
国際文化学科長  
陳 來幸教授



## 「情報デザイン学部」開設

ノートルダム清心女子大学に「情報デザイン学部情報デザイン学科」が新設されました。現代の社会は、情報技術やデータ分析によって支えられているといっても過言ではありません。情報デザイン学科は情報とデータによって、社会が直面する課題の解決や改善のために社会のデザインに取り組む人材の育成を目標としています。そのためにプログラミング科目、統計学などの情報関連科目、経営学、マーケティングなどの社会科学科目を、時間をかけて学べるよう準備しています。企業や自治体がもっている課題を把握、データで分析、情報技術を使って解決するトータルなスキルが身に付きます。本学科を卒業した学生は、情報技術者やデータアナリストとして、あらゆる企業、自治体で活躍できます。また高校教諭を目指すことができます。



情報デザイン部長  
情報デザイン学科長  
中本 幸一教授



# シスター来日100周年記念 新学棟トリニティホール竣工式を挙

シスター来日100周年記念を冠して建設された地上7階建ての新学棟「トリニティホール」が、2024年3月15日に完成しました。5月15日には渡り廊下や外構の整備も完了し、2024年7月16日（火）10時より、新学棟3階トリニティコモンズにて、竣工式が挙行されました。

はじめに、ジャルト・アルベルト神父様（カトリック出雲教会主任司祭）による祝福と祈りが行なわれました。式の中で神父様は「この大学はカトリック大学です。大学の中には、いろいろな方々、学生たち、先生たち、そして職員の方がおられます。皆さんと一緒に頑張り、一緒に歩みながら、〈愛〉に基づく学校のコミュニティを作らなければなりません」と話されました。



その後、神父様が竣工式会場となった3階の東西南北、四隅に聖水を振りかけて、トリニティホールを祝福しました。

続いて、ノートルダム清心学園シスター津田葵理事長からの挨拶がありました。津田理事長は、新棟の名称について「トリニティホールの〈トリニティ〉は、まことの一致、親しい交わり、深い喜びを表しています。〈父と子と聖霊〉という三位一体の神の御恵みを受けて、新学棟が多様な人々の交わりと研鑽の場となるようにという思いが込められております」と説明し「2024年は、シスター来日100周年を迎え、在学生、卒業生はもとより、大学関係者の皆様を、更に今後100年支え続けられるよう、本学の意志の象徴としてこの新学棟建設に当たって



まいりました。無事に竣工し、こうして皆様にご披露できますのも、ひとえに日頃からご支援、ご協力いただいております関係各社の皆様のおかげでございます。皆様のご尽力に改めて心より感謝申し上げます」と謝意を述べ、設計・施工にあたって下さった株式会社木村設計、株式会社荒木組に感謝状が贈られました。

感謝状贈呈に続き、多くの協力会社



の方々、暑い日も寒い日も風雨の中にあっても丁寧に作業してくださった皆様に感謝の気持ちをお伝えするために「新学棟プロジェクトムービー」が、この新学棟に設置された大型LEDビジョン3画面で上映されました。

プロジェクトムービーは、新学棟が完成するまでの工程の写真と動画で構成されており、多くの方々関わってできた建物であることが映像に表されていました。式典の最後は、ノートルダム清心女子大学の姉妹校である清心中学校・清心女子高等学校のオーケストラ部の伴奏により、大学歌を歌いました。



上映後、司会の横田和香さん（日本語日本文学科3年）が「トリニティホールは、工期369日、延べ約1万5000人の総力を結集して作られました。関係者の皆様、本当にありがとうございました。ご臨席の皆様には、どんなに技術が発達しても、この建物

は人の手によって作られているのだと感じていただけたのではないかと思います。この建物が多くの〈人〉によって完成したように、私たちは、これからこの学び舎で多くの時間を、多くの〈人〉と過ごし、大学生活4年間で充実したものになるよう日々学んでまいりたいと思います」と述べ、感謝と決意の気持ちを伝えました。

竣工式後は、来賓の方々をご案内しての見学会が催され、7階の情報デザイン学部専用スペースであるPC教室や、3Dプリンターなどが置かれたデザインラボをはじめ、各階を多くの方が見学してくださいました。

デザインラボでは鈴木優准教授が

3Dプリンターやレーザープリンターを実際に動かして、見学者の興味を引いていました。

これからこの「トリニティホール」が教育研究の研鑽の場として活用され、その名前が表すように、多くの方々の交流の場となるよう願っています。



## 大学院第28回及び学部第72回 フッド授与式、卒業証書・学位記授与式を挙行了しました

2024年3月8日(金)本学記念館において、大学院第28回及び学部第72回フッド授与式が挙行されました。

2学部6学科388名、大学院2研究科の各課程を修了した9名の計397名がフッドを授与されました。



また、3月14日(木)には、本学記念館において、大学院第28回及び学部第72回卒業証書・学位記授与式が挙行されました。2学部6学科388名、大学院2研究科の各課程の修了者9名及び文学研究科論文博士1名の計398名が学位記を授与されました。カトリック岡山教会のパヴァン・マルネニ神父様の祈り、聖歌に続き、津田学長から、学生一人



ひとりに卒業証書・学位記が手渡されました。

津田学長は「困難な中でも、自分で積極的に工夫して前に進み、卒業論文を仕上げ、資格試験を受け、一つ一つの課題をクリアし、卒業の日を迎えたことを誇らしく思っています」と学生たちを称えました。

そして、SDGsを例に、グローバル、ローカルな視野を持って社会に貢献してほしいと学生たちへの期待を述べるとともに、本学で

学んだ学生にはその力があることを、中村哲さんの言葉を引用し「民族・宗教・国境を超えた愛には大きな力がある」と伝えました。

式辞の最後は「今日の卒業の日を迎えた皆さまがノートルダム清心女子大学での学生生活をふり返り、恵みに満ちた日々を感謝し、失敗に終わったことをもう一度ふり返り、これからの新しい日々を丁寧に送られるように毎日お祈りしています」という温かいメッセージで締めくくられました。



## 2024年度入学宣誓式を挙行了しました

2024年4月1日(月)、本学記念館において入学宣誓式が挙行され、学部542名、大学院生9名が入学しました。

今年度は、新たに開設した「国際文化学部国際文化学科」及び「情報デザイン学部情報デザイン学科」の新入生を迎えて4学部8学科体制でスタートしました。

新入生入場の後、パヴァン・マルネニ神父様の祈り、聖歌に続き、新入生宣誓が行われました。

津田学長は祝辞のなかで  
「1.目標を定め、主体的に生きること。目標に向けて、ある時は楽しいことを我慢してでも、つき進んでゆく主体的な生き方が必要となるときがあります。  
2.信頼関係を築き、沢山の友人をつくること。  
3.卒業後の目標を作ること。将来、何をしたいのかをしっかりと考えること。」

私はみなさんがこの学び舎で座学のみでは達成することができない様々な場での体験、人々との出会い

を通して、学びの実績を積み重ね、その成果が豊かに実ってゆくことを願っております」とお祝いの言葉を贈りました。



## 73年の歴史をつなぐキャップ・アンド・ガウン授与式を挙行

2024年5月11日(土)9時30分から本学記念館において、第73回キャップ・アンド・ガウン授与式が挙行されました。

キャップ・アンド・ガウン授与式は、卒業関連行事の一つであり、アカデミックドレスのキャップとガウンを授与されるもので、4年生が学士候補生になったことを公に宣言する行事です。4年生は、グーステップで入場、全員で「宣誓」し、最終学年になった責任と自覚を新たにしました。

津田学長は「社会の課題を解決するために、それぞれの未来像を描いてほしい」と学士候補生たちにエールを送りました。

続いて、カトリック大阪高松大司教区の諏訪榮治郎名誉司教様から「人間になるため」と題した講演があり、学生たちに叡智を授けてくださいました。



## 国際交流

### - SEISHIN AND THE WORLD -



#### ミシガン州立大学連合日本センター(JCMU)から 8名の米国大生が本学を来訪

2024年5月27日(月)、ミシガン州立大学連合日本センター(Japan Center for Michigan Universities、以下JCMU)に来日滞在中の米国大学生8名が来学されました。

金山勉国際交流センター長より建学の精神をはじめ、学部学科、学びの特徴についての紹介がありました。学生からは、日本の大学事情についての積極的な質問が寄せられ、活気あふれる雰囲気のディスカッションが行われました。

津田学長は歓迎挨拶のなかで、過去のご経験から、交流する相手の母国語を使いながら異なる文化を知る経験のすばらしさと重要性について語りかけられました。



#### 岡山市の姉妹都市・カリフォルニア州サンノゼの高校生が本学を来訪

2024年6月19日(水)、清心女子高等学校の姉妹校で、岡山市の国際交流友好都市であるサンノゼ市にキャンパスがあるノートルダム・サンノゼ高等学校(アメリカ合衆国・カリフォルニア州)からの生徒12名が、日本の女子大学での学びを体験するために来訪しました。

津田学長はご挨拶で、2018年以来となる日本への訪問団の来校を心から歓迎するメッセージを送られ、加えて日本についてそれぞれがどのような興味・関心を持っているのか、一人ひとりに質問を投げかけ応答するなど、終始、和やかな雰囲気での時間が持たれました。

なお、清心女子高等学校では、来年2025年3月に、今度は清心女子高等学校の生徒が米国のノートルダム・サンノゼ高等学校を訪問して交流する予定です。



#### 第15回日本大学英語模擬国連大会(JUEMUN) 2024 報告

2024年6月28日(金)～30日(日)、本学で第15回日本大学英語模擬国連大会(JUEMUN)を開催し、国内外から163名の学生が参加しました。今大会ではSDGs4(Quality Education)をベースに「持続可能な開発のための教育」を大議題とし、参加者たちは各会議室でグリーン教育・平和教育・STEM教育、それぞれに焦点を当てながら12の決議案を作成しました。JUEMUN 2024では大会と並行し、戦争により命を失ったウクライナ人学生40名の「発行されなかった卒業証書展」を併せて開催しました。

また、株式会社レパスト様と本学食品栄養学科所属の有志の学生のコラボにより、岡山の特産品を使用したオリジナルメニューの開発を行い、大会参加者に提供しました。



#### 在大阪・神戸米国総領事館よりアカシュ・スーリ領事ご来訪 | 国際交流センター

2024年7月8日(月)、在大阪・神戸米国総領事館のアカシュ・スーリ領事が本学を訪問され、本学生たちとの対話ミーティングに出席されました。

スーリ領事は、昨年8月に総領事館に着任され、日米間の相互理解促進のため、教育・文化を通じた交流に尽力されています。日本の持つ伝統文化やアニメを中心にポップカルチャーに至るまで社会の良さをさまざまなところで感じているとお話くださいました。本学生たち25名が出席したミーティングでは、ご自身が大学在学中

に経験した在イタリア米国大使館でのインターンシップが自分を変えたと話され、勇気をもって自分から世界を意識しながら行動することの大切さを強調されました。



#### 本学学生と岡山ビジネスカレッジの外国人留学生在が 交流会を行いました | 日本語教員養成課程

2024年7月10日(水)、日本語教員養成課程では、専門学校岡山ビジネスカレッジ(以下、OBC)の日本語学習者(外国人留学生)を招き、互いの異文化理解と親睦を深めるために交流会を開催しました。

今年度は、本学部生18名、OBCから外国人留学生18名が参加しました。

①日本語だけ使う②敬語はできるだけ使わない③若者言葉もOK!④岡山の方言も使ってみよう!というルールを設定して交流しました。

約1時間の交流会は、終始笑い声が絶えることなく、あっという間に終盤を迎えることになりました。最後に、外国人

留学生を代表してバングラデシュ出身の学生が日本語でお礼の言葉を述べると、全員から大きな拍手が送られました。

それぞれが日本語を学ぶ/教える難しさと楽しさを、実感できたのではないかと思います。



4月

April

Event

## 新入生を迎える在学生の活動 | 日本語日本文学科

入学前教育と新入生オリエンテーションは、新しい環境に  
一歩踏み出そうとする入学生を対象とした大事な催しです。  
少しでも不安を解消し、期待に満ちた気持ちで大学生活を  
始められるように、例年入念に準備して臨みます。

全学共通の学長講話や学務部オリエンテーション、自身の  
所属先によって別々に行われる学科オリエンテーション、各  
免許・資格の説明会などで、大小多岐にわたる説明を聞きな  
がら、入学生は「大学生になること、大学生であるということ」  
について、少しずつ実感を固めて行っているようです。

ここに欠かせないのが、協力学生です。彼女たちは先輩在学  
生として、新入生を各オリエンテーションの会場まで案内し、壇上

に立って自らの体験を語り、質問に答えます。4月の構内には  
いつも、迷った新入生に教室の場所を教える協力学生の姿が  
あります。数年前の自分に語りかけるように新入生を迎え取る  
彼女たちは、このオリエンテーションの中心的な運営者です。



各学科／日本語日本文学科の  
オリエンテーションの様子を  
各学科がブログにまとめています。  
のぞいてみてください。

5月

May

Event

## デフバドミントン「2024日本ろう者 ランキングサーキット大会」で優勝 | 食品栄養学科学生

2024年5月25日(土)～26日(日)、富士見市立  
市民総合体育館(埼玉県富士見市)にてデフバドミン  
トン「2024日本ろう者ランキングサーキット大会」が  
開催され、食品栄養学科3年 片山結愛さんが以下の  
成績を収めました。

|         |      |
|---------|------|
| 女子シングルス | 👑 3位 |
| 女子ダブルス  | 👑 3位 |
| 混合ダブルス  | 👑 優勝 |



4月

April

Event

## 大学院博士後期課程の学生が執筆した ミニレビューが『地域ケアリング』に掲載 | 栄養生化学研究室

2024年4月、大学院人間複合科学専攻博士後期課程に入学した小林謙一ゼミの大学  
院生たちによって執筆されたミニレビューが、いのちと生活を支えるケアの知識・技術とその  
基盤となる理論と情報を提供する学術専門雑誌である『地域ケアリング』2024年5月号  
(北隆館)に掲載されました。

タイトルは、肥満誘導型疾患における多臓器連関とNAD  
およびトリプトファン代謝異常とこの視点から考える機能  
性食品の創出

Multiorgan linkage and abnormalities of NAD and  
tryptophan metabolism in obesity-induced  
diseases, and creation of functional foods from this  
perspective

この論文では、NADやトリプトファン代謝異常から見た  
肥満誘導型疾患の多臓器連関についての、彼女たちの  
研究知見を紹介するとともに、この視点から見た機能性食  
品の創出についてコンパクトに紹介しています。

※本稿の研究報告の一部は、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究  
(C)「キノリン酸の臓器線維化惹起作用の解明と臓器線維化から身体を  
守る食品成分の探索」(2022-2025)(研究課題番号:22K11716, 研究  
代表者:小林謙一)および公益財団法人両備理園記念財団第44回研究  
助成(生物学研究奨励賞)「非アルコール性脂肪肝炎におけるトリプトファン  
代謝異常の「腸-肝-脳」連関の解明」を受けて実施しています。



6月

June

Event

## 用水路転落地点の地図化は 岡山市で初の取り組み 現代社会学科人文地理学教室で 用水路転落防止リーフレットを作成し地域に配付

現代社会学科人文地理学教室では、岡山市に  
おける用水路転落防止のリーフレットを作成し、岡山市  
の公民館等に配付しました。2015年に岡山県の自転車  
やオートバイを運転中の転落死者数が全国ワースト  
1位になり、その後も転落死亡事故が継続して報告  
されていることを問題視し、学生3名と教員1名が、  
地理情報システム(GIS)を活用した実態調査に取り  
組みました。

学生たちはこの活動を通して、用水路転落事故  
は、非常に身近な問題として意識する必要があると  
学びました。実際に転落地点に行くと、一見安全そう  
に見える場所もいくつかあったので、転落防止啓発  
活動の重要性を学びました。多様な年齢層の方が多様  
な要因で転落しているため、このリーフレットなどを  
対策の一つに役立ててもらえると嬉しく思います。



地域連携・社会貢献活動

本学から5事業が活動中：学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト  
| 地域連携・SDGs推進センター

岡山市主催の「令和6年度学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト※」に、本学より応募の5つの事業が採択されました。それぞれの事業は、学生たちが授業で学んだことを実践へと活かせる内容になっています。

| 団体名                          | 事業名                                           | 参加学生内訳                       |
|------------------------------|-----------------------------------------------|------------------------------|
| ツボジョーワールド探検隊                 | 坪田譲治の〈逆境を心豊かに生きる文学〉発信！<br>一福祉との接点をさぐる文学普及活動―  | 日 文 7名                       |
| こめこめくらぶ                      | おにぎり店と協働した商品開発による、地産地消の<br>認知度向上と食育を目的とした実践事業 | 人間生活 8名                      |
| nopak                        | 食品ロス軽減のためのエコロジカルなソーシャル<br>ビジネスプロジェクト          | 人間生活 12名                     |
| ノートルダム清心女子大学<br>ソーシャルデザイン研究会 | 大学生と留学生の異文化チームによる犬島の社会問題<br>解決と活性化            | 英 文 6名<br>日 文 2名<br>他 大 学 2名 |
| 岡山観光ガールズ                     | 外国人旅行者を対象とした「岡山市1泊ツアー」の開発                     | 英 文 8名                       |

※学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト：大学生等が企業や地域、NPO等とコラボレーションして、若者ならではの柔軟なアイデアの提案や実践によって地域課題を解決する活動や、大学等で学んだスキルを活用して小規模ビジネスの実現につながる活動に対し、補助金を交付して支援する事業です。

地域連携・社会貢献活動

「OKAYAMAつながる市」でハジマリニさんの焼き菓子を販売しました！  
+ 恒例の奉還町商店街土曜夜市にも参加 | 人間生活学科

OKAYAMAつながる市

人間生活学科豊田ゼミ生が、2024年6月30日（日）に表町商店街で開催された「OKAYAMAつながる市」でハジマリニさんのマフィン・スコーン・ドーナツを販売しました！

**実は…、学生たちが発案した新商品も限定販売していました！！嬉しいことに完売でした！**

「OKAYAMAつながる市」終了後、ハジマリニさんへフィードバックを行い、それに対する意見をもらいました。

- ①販売目標の設定
- ②売れ行き商品が偏った原因
- ③TFT(※)の訴求
- ④販売体制
- ⑤商品の管理方法

今回のつながる市、地産地消マルシェに向けて、ハジマリニさんからの意見をもとに、TABLE FOR TWOグループで意見を出し合い改善方法を見つけていきます。

※TFTとは「TABLE FOR TWO」の略で「二人のための食卓」という意味。先進国と開発途上国の子どもたちが食事を分かち合うというコンセプトのもと、先進国で1食食べると開発途上国の1食分の値段である20円が寄付される活動のこと。（特定非営利活動法人 TABLE FOR TWO Internationalのwebサイトからの引用）



地域連携・社会貢献活動

【清心コラボ】JAF岡山連携：おしゃれ＆安全なヘアカタログ作り  
| 地域連携・SDGs推進センター

地域連携・SDGs推進センターでは、〈清心学生なら誰でも、学部学科・学年問わず、参加できる全学的な社会連携活動〉、通称「清心コラボ」を、2023年度から本格的に実施しています。

その最初の事例が、一般社団法人日本自動車連盟（JAF）岡山支部との連携事業です。中高生へのアンケートをもとに、学生のアイデアで、ヘルメット着用時にも髪型が崩れないような、おしゃれなヘアカタログを、美容院の協力も得て作成しました。自転車ヘルメットの努力義務化もあってたくさんのメディアが注目してくださいました。

2024年には清心中学・高校の協力を得て、じっさいにカタログの効果測定も行いました。各地の警察から活用報告をいただいていますし、自動車業界や学校制服メーカーからも連携希望が続々届いています。

英語英文学科と人間生活学科の学生4名で始まり、半期ごとに少しずつメンバーを入れ替えながら、2024年10月現在は、日本語日本文学科1名、現代社会学科2名、人間生活学科1名、児童学科1名が活動に参加しています。



地域連携・社会貢献活動

【清心コラボ】天満屋連携：トートバッグ／おにぎり作り  
| 地域連携・SDGs推進センター

清心コラボ（全学的な社会連携活動）の第二弾は、株式会社天満屋との商品企画連携活動です。

2023年4月から約半年かけて、本センターと天満屋で、様々な連携事業の可能性について協議し、在学生アンケート調査においてリクエストの多かった「商品企画」活動をまず実施することになりました。2023年10月の参加者募集時には全学科の1～3年生50名以上から希望がありましたので、すべての企画会議（半年間、月2回、天満屋本店会議室）に参加できる学生8名（5学科1～3年生）を選び、4名ずつ食品班と雑貨班にわかれて活動を開始しました。

食品班は、天満屋の仲介で「できたておむすび米米」と連携して、地域産品を生かしたおにぎりを商品化し、2024年4月の「OKAYAMAつながる市」で販売しました。OGの方々も沢山購入してくださいました。

雑貨班は、同じく天満屋の仲介で「SIRUHA」と連携して、トートバッグの企画・商品化を進めています。

これらの活動を機に、学生はビジネスやキャリアについて深く考えることができたようでした。2024年度の商品企画活動もまもなく開始します。



## 天満屋グループと包括的連携協定を締結 天満屋グループが大学と初の連携協定

2024年1月31日(水)に、株式会社天満屋をはじめとする天満屋グループと、包括的連携協定を締結しました。天満屋グループが大学と包括的連携協定を結ぶのは、本学が初めてです。包括的な連携のもと、地域創生に向けた地域社会の発展及び人材の育成に資することを目的としています。

昨年から開始された全学的な学生商品企画活動に加えて、今年4月に新設された「情報デザイン学部」で実施するPBL(Problem-Based Learning、問題解決型学習)の活動に、天満屋グループの持つ資源やノウハウを活用し、相互に連携・協力することで、地域課題の解決に協働すると共にデジタル社会を切り拓く次世代の育成に貢献します。

具体的には、学生が天満屋をフィールドワークの場として活用することで、実地での経験とデータが結びつき、より深い検証と課題解決に向けた提案ができるような機会を創出します。

### 連携事項

- 1.地域の文化・生活・福祉の振興に関すること
- 2.相互の教育及び人材の育成に関すること
- 3.市街地のまちづくりに関すること
- 4.その他双方が必要と認めること



協定書に署名をした津田学長(左)と斎藤和好天満屋社長(右)(場所:本学)

## 香川県と就職支援に関する協定を締結

2024年3月5日(火)に香川県と就職支援に関する協定を締結しました。

本学では香川県が協定締結した女子大学の中で最も多くの同県出身者が学んでいます。特に女性の転出超過が拡大している同県にとって、学生の就職活動を支援することにより、U・Iターン就職の促進を図りたいという思いが今回の協定締結につながりました。

人口流出問題を喫緊の課題としている香川県にとって、本学で学んだ学生たちは今後の地域社会を支える重要な存在であり、今回の協定によって、本学学生たちと香川県の企業との相互理解や、就職促進につながることが期待されています。

### 協定内容

- 1.学生に対する県内企業等の情報、U・Iターン就職促進事業及び各種イベント等の周知に関すること
- 2.学内における合同企業説明会等の開催に関すること

- 3.保護者に対するU・Iターン就職に係る情報提供に関すること
- 4.学生のU・Iターン就職に係る情報交換及び実績把握に関すること
- 5.県内企業等における学生のインターンシップ参加の支援に関すること
- 6.その他、学生のU・Iターン就職促進に関すること



協定書に署名をした池田香川県知事(左)と津田学長(右)(場所:香川県庁)

## 赤磐市と包括的連携協定を締結

2024年3月27日(水)に、赤磐市と包括的連携協定を締結しました。包括的な連携のもと、地域社会の持続的な発展と人材育成に寄与することを目的としています。

締結式では、友實武則市長は「現在、ノートルダム清心女子大学には、赤坂地域学校統廃合に際してのインクルーシブ教育の推進についてなど協力いただいているが、今後、様々な連携事業が花開き、さらに連携事業の深掘りもできるのではないかと述べられました。続けて津田学長が「赤磐市赤坂地域の3小学校の統合による「インクルーシブな学校」の新設をきっかけとし、今後はこれらの取り組みを中心に協定の目的にもあるとおり、地域づくり、まちづくりのため、また、福祉の振興、発展のための連携協力し、教育・研究の推進と地域社会の発展に寄与することができれば」と抱負を語りました。

### 連携事項

- 1.教育の振興・発展のための連携
- 2.地域づくり・まちづくりのための連携
- 3.福祉の振興・発展のための連携
- 4.人材育成のための連携
- 5.相互の施設利用に関する連携
- 6.その他両者が協議して必要と認める連携協力



協定書に署名をした津田学長(左)と友實赤磐市長(右)(場所:赤磐市役所)

## 株式会社リョービツアーズと包括的連携協定を締結し、 インバウンド観光推進で地域課題の解決に協働

2024年8月1日(木)に本学において株式会社リョービツアーズと包括的連携協定を締結しました。

締結式では、津田学長は「本学国際交流センターとの連携活動ではこの8月にイギリスのリバプール・ホープ大学の学生を招いて岡山におけるインバウンド観光を推進する取り組みを行なっており、お互いに連携協力し、地方創生に向けた地域社会の持続的な発展に寄与することができよう心からお願いいたします」と述べました。続けて谷口修身代表取締役COOが「岡山、そして瀬戸内の観光の魅力を中心に、そのすばらしさを海外に発信し、このような機会をしっかりと活用することでさらに岡山の発展に寄与できるのではないかと考えています」と述べられました。

今後、全学的な社会連携活動を進めるとともに、特に今年8月から本学国際交流センターが中心となって実施したリバプール・ホープ大学との連携活動でリョービツアーズと連携・協力することで、インバウンド観光の推進など、地域課題の解決に貢献します。

### 連携事項

- 1.地域の魅力発信に関すること
- 2.地域の文化・観光の振興・発展に関すること
- 3.地域づくり・まちづくりに関すること
- 4.その他両者が協議して必要と認めること

※リバプール・ホープ大学(Liverpool Hope University)／イギリス  
長い歴史を持つ教員養成中心のキリスト教系大学。  
2001年に留学協定を締結。



前列 津田学長(左)、谷口リョービツアーズ代表取締役COO(右)  
後列(左から) 瀬西地域連携・SDGs推進センター長、金山副学長、  
中原伸介リョービツアーズ常務執行役員、豊田副学長

## 学生たちと共に学んで

文学部教授 赤松 佳子

研究者として教員として勤務したノートルダム清心女子大学での日々を振り返って、何より忘れがたいのは3・4年生を対象としたゼミである。英語圏文学を研究する私は、17世紀の詩から現代詩、シェイクスピアやショーの演劇、C・ブロンテやL・M・モンゴメリの小説に至るまで様々な詩人や作家の作品をゼミで読み、卒業論文の指導に関わった。卒論指導は学生と共に文学に真剣に向き合う機会だったので、執筆学生の潜在力を最大限に引き出し、当人が達成感を得ているのを見ることは指導者としての大きな喜びだった。

なかでも2008年度の3年ゼミは、モンゴメリの *Anne of Green Gables* を原書刊行百周年に精読するものであり、6月のモンゴメリ国際会議で研究発表をするという私の挑戦もあったので、鮮烈な記憶として残っている。2008年12月2日には本学にモンゴメリの孫娘を講演者として迎えた。また2008年12月から2009年2月にかけて、ふくやま文学館で「モンゴ

メリの冬物語展」が開催されるにあたり、その監修を私が務めた。ゼミ生はこのイベントに参加しながら授業で作品を深掘して刺激的な1年を過ごし、翌年度の卒業論文に結集させたのである。

モンゴメリ生誕150周年の2024年6月、隔年開催の国際会議が“L.M. Montgomery and Politics of Home”をテーマに開催された。ここで私は、閉会前の最後のセッションという名誉ある場で発表をする機会に恵まれた。本学で研究と教育を続けた年月を懐かしく想起したことだった。



文学部英語英文学科教授。  
2024年4月名誉教授。

## ノートルダム清心女子大学生の思い出

文学部教授 坂口 眞理

アメリカの大学院言語学科(UCLA)の博士課程を修了し、すぐに赴任したのが、本学でした。以来32年の長きにわたって務めさせていただきました。

教えはじめて、まず私を魅了したのは、本学の学生さんたちの純真さ、優しさと礼儀正しさです。オリエンテーションの時に学科長が教員紹介をし「坂口先生は日本語よりも英語の方が得意かもしれない」と冗談交じりに話したのを本気に取った学生さんたちは、“Good morning, Ms.Sakaguchi”などと英語であいさつをするのです。なぜ、皆がみんなわたしにだけ英語であいさつするのか不思議に思って考えると、学科長の自己紹介が思い当たりました。

学生の皆さん、そして教職員の皆さんに私が日本語も話せることを発見するまで、しばらく時間がかかりました。それでわたしを得たこともあるのですが、、、。

美しい習慣は、いつまでも残してほしいものです。授業の前後の挨拶、授業の後学生が前に質問に来ると他の学生が白板を消すの手伝ってくれます。廊下などで学生さんに会う

と、挨拶します。学生さんの方から挨拶してくれることもあります。昔は、他学科の学生さんでも挨拶し返してくれました。コロナ禍明けのこのごろは、学生さんは、自分の授業担当者にしかあいさつしないようで、さびしく思っています。こっちが挨拶しても「誰、この人」と白い目で通り過ぎていく人もいます。今は週1回の非常勤ですが、キャンパスでみかけたら、声をかけてください。ね。本学には本学にしかできない教育、一人一人を大切にすること(シスター渡辺が「名前を呼ぶ」教育とおっしゃっていました)があるので、今後もそれを実践していきたいと思います。

そんなわけで、学期はじめ、私は学生の名前を覚えるのに必死になっています。



文学部英語英文学科教授。  
英語英文学科長、大学院英語  
英米文学専攻主任等を歴任。  
2024年4月名誉教授。

## 役職者の紹介

2024年4月1日付



学長  
津田 葵  
学園理事長



副学長(教学担当)  
小林 謙一  
人間生活学部 教授



副学長(経営担当)  
豊田 尚吾  
人間生活学部 教授



副学長(国際交流担当)  
金山 勉  
国際交流センター 教授



文学部長  
大学院人間生活学研究科長  
山下 美紀  
文学部 教授



人間生活学部長  
大学院人間生活学研究科長  
大学院人間複合科学専攻主任  
戸田 雅裕  
人間生活学部 教授



国際文化学部長  
国際文化学科長  
陳 來幸  
国際文化学部 教授



情報デザイン学部長  
情報デザイン学科長  
中本 幸一  
情報デザイン学部 教授



大学院英語英米文学専攻主任  
新野 緑  
文学部 特別招聘教授



英語英文学科長  
小橋 雅彦  
文学部 教授



日本語日本文学科長  
大学院日本語日本文学専攻主任  
東城 敏毅  
文学部 教授



現代社会学科長  
大学院社会文化学専攻主任  
紺谷 亮一  
文学部 教授



人間生活学科長  
大学院人間生活学専攻主任  
杉山 博昭  
人間生活学部 教授



児童学科長  
大学院人間発達学専攻主任  
湯澤 美紀  
人間生活学部 教授



食品栄養学科長  
大学院食品栄養学専攻主任  
長濱 統彦  
人間生活学部 教授

2024年度新任の教員

2024年4月1日付



英語英文学科  
桑山 敬己  
文学部 特別招聘教授



英語英文学科  
植野 貴志子  
文学部 教授



国際文化学科  
富田 裕子  
国際文化学部 教授



国際文化学科  
岩瀬 真央美  
国際文化学部 教授



国際文化学科  
末弘 美樹  
国際文化学部 教授  
(2024年10月1日付)



国際文化学科  
土佐 弘之  
国際文化学部 教授



国際文化学科  
八尾 祥平  
国際文化学部 教授



国際文化学科  
工藤 裕子  
国際文化学部 准教授



国際文化学科  
松平 勇二  
国際文化学部 准教授



国際文化学科  
郭 まいか  
国際文化学部 講師



国際文化学科  
長村 裕佳子  
国際文化学部 講師



情報デザイン学科  
陳 光輝  
情報デザイン学部 教授



情報デザイン学科  
天野 憲樹  
情報デザイン学部 教授



情報デザイン学科  
上林 篤幸  
情報デザイン学部 教授



情報デザイン学科  
河野 英太郎  
情報デザイン学部 教授



情報デザイン学科  
左近 透  
情報デザイン学部 教授



情報デザイン学科  
吉川 隆士  
情報デザイン学部 教授



情報デザイン学科  
神田 哲也  
情報デザイン学部 准教授



情報デザイン学科  
鈴木 優  
情報デザイン学部 准教授



情報デザイン学科  
前川 浩基  
情報デザイン学部 准教授



情報デザイン学科  
大西 洋  
情報デザイン学部 講師



情報デザイン学科  
柳生 光義  
情報デザイン学部 助教



新学部新学科開設室  
鈴木 雅洋  
新学部新学科開設室 准教授

2024年度  
新任の職員

2024年4月1日付

職員

|                 |        |
|-----------------|--------|
| 学務部保健センター 職員    | 板谷 裕子  |
| 英語教育センター 実験実習助手 | 近藤 実花子 |

2023年度  
退職の教職員

2024年3月31日付

教員

|           |        |             |
|-----------|--------|-------------|
| 文学部 教授    | 英語英文学科 | 赤松 佳子       |
| 文学部 教授    | 英語英文学科 | 坂口 真理       |
| 文学部 教授    | 英語英文学科 | ディヴィッド ラムジー |
| 文学部 准教授   | 英語英文学科 | キャロリン スワスキー |
| 人間生活学部 教授 | 人間生活学科 | 清水 純一       |
| 人間生活学部 教授 | 人間生活学科 | 深谷 信介       |
| 人間生活学部 教授 | 児童学科   | 西 隆太郎       |
| 人間生活学部 教授 | 児童学科   | 村中 李衣       |

職員

|               |       |
|---------------|-------|
| 文学部 事務主任      | 前谷 明子 |
| 人間生活学部 職員     | 和田 綾奈 |
| 英語教育センター 事務主任 | 加藤 裕子 |
| 学務部保健センター 職員  | 近藤 福美 |
| 入試広報部 係長      | 宮本 里美 |
| 入試広報部 参与      | 中村 茂喜 |

ノートルダム清心女子大学教育基金  
＜一粒の麦＞等へのご協力のお礼

「一粒の麦」などを通じて、日頃から温かいご支援をいただき、心より感謝申し上げます。2023年度の寄付金について、右記のとおりご報告申し上げます。本学では、これからも学生支援に全力を挙げてまいります。引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

●2023年度寄付金

| 使途名         | 寄付金額        | 件数  |
|-------------|-------------|-----|
| 教育研究環境の拡充   | ¥6,737,080  | 255 |
| 本学学生に給付する学資 | ¥205,000    | 3   |
| 目的は問わない     | ¥1,150,000  | 9   |
| その他         | ¥20,544,700 | 7   |
| 合計          | ¥28,636,780 | 274 |

Campus News



Cover：帰ってきたルルドのマリア像 | 山根道公 キリスト教文化研究所

大学は今年「シスター来日100周年」という節目の年を迎えました。建学の精神、清心スピリットが受け継がれていくことを伝えるシンボルとして、伝統的に元々正門脇にあったルルドのマリア像が新学棟の入り口前に帰ってきました。思い出されるのは、本学キリスト教文化研究所元所長の須沢かおり先生の次の言葉(一部抜粋※)です。「相互的な交わりの中で、すべての人々が一つとなり、真の居場所と心の平安を得られることに、現代も多くの人々を惹きつけてやまないルルドの存在価値と意味がある」ルルドのマリア像は、一人ひとりをかけがえのない存在として大切にするインクルーシブ社会をめざす本学のカトリック教育の象徴でもあるとも言えるでしょう。 ※(「人生の終わりへの希望—ルルドに見る全人的ケア・癒し・共生—」『キリスト教文化研究所年報』第42号所収)